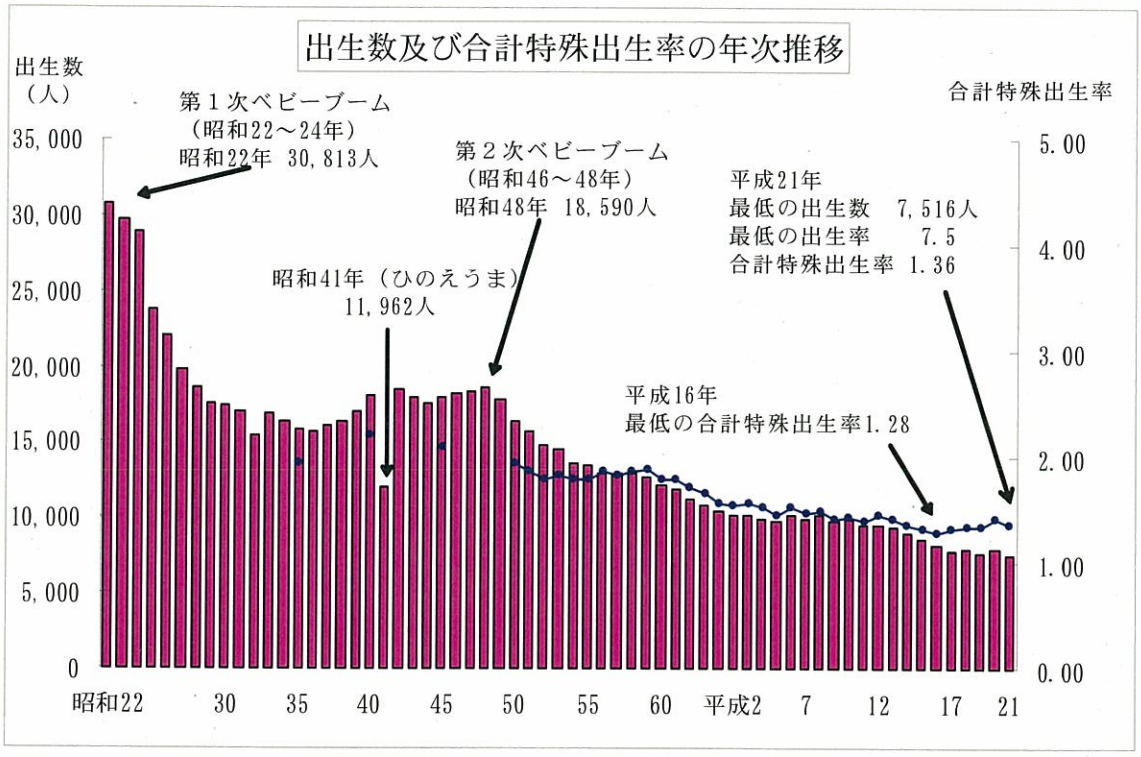
Ⅲ．結果の概要

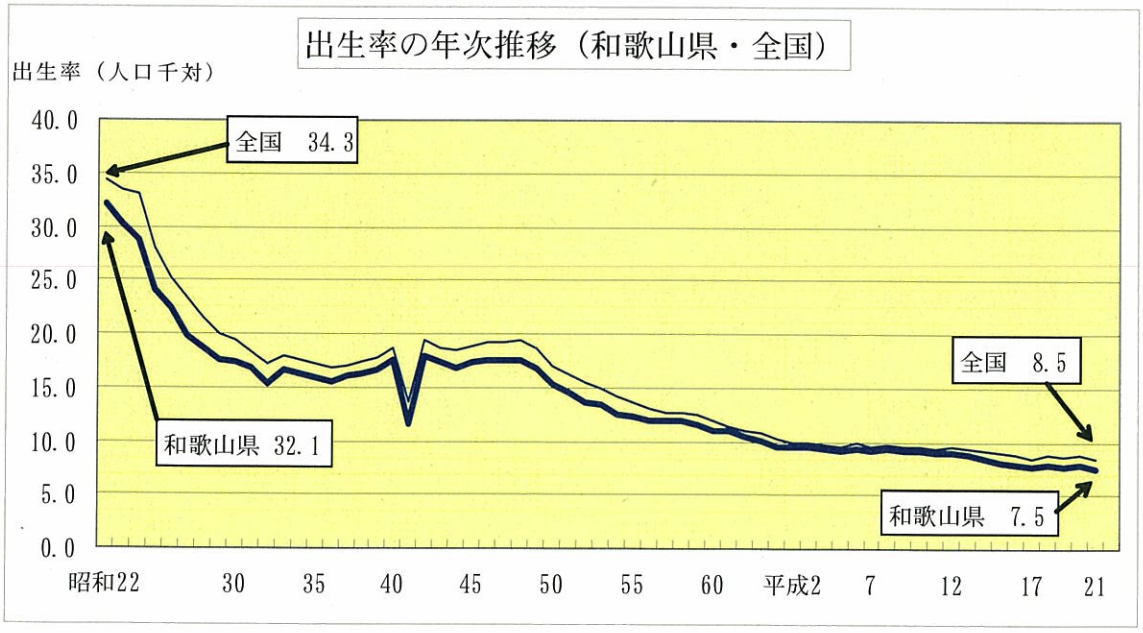
1　出生

平成21年の出生数は7,516人で、前年の7,866人よりも350人減少した。

出生率（人口千対）は7.5で前年の7.8を下回った。また、合計特殊出生率は1.36で、前年の1.41を下回った。

出生数は、昭和50年以降減少傾向が続き、平成21年は出生数、出生率とも最低となった。





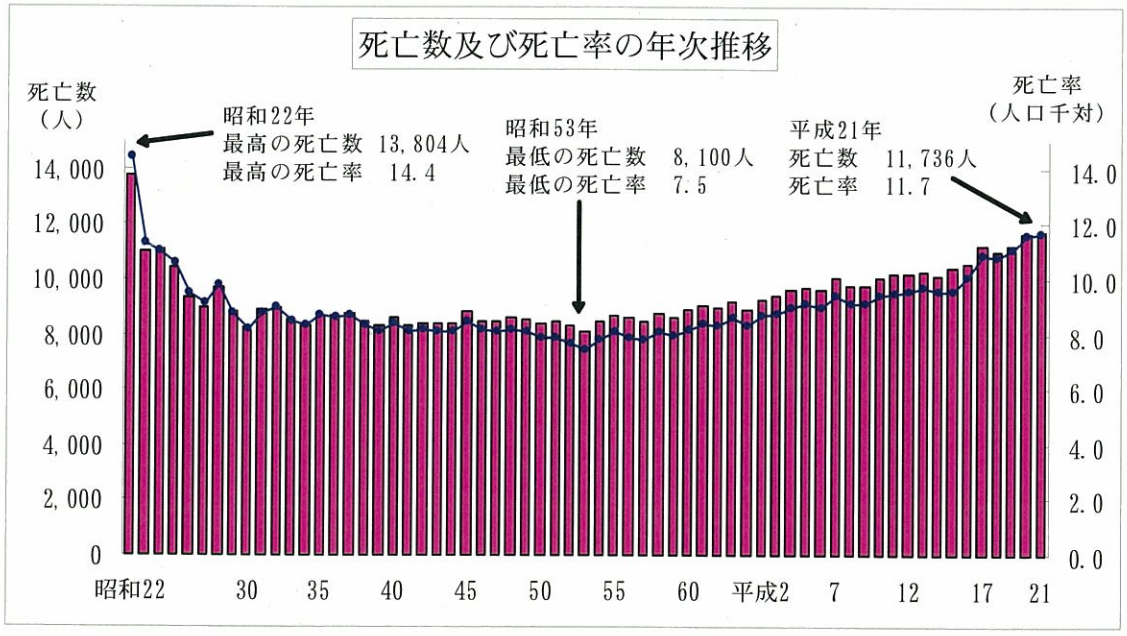
2　死亡

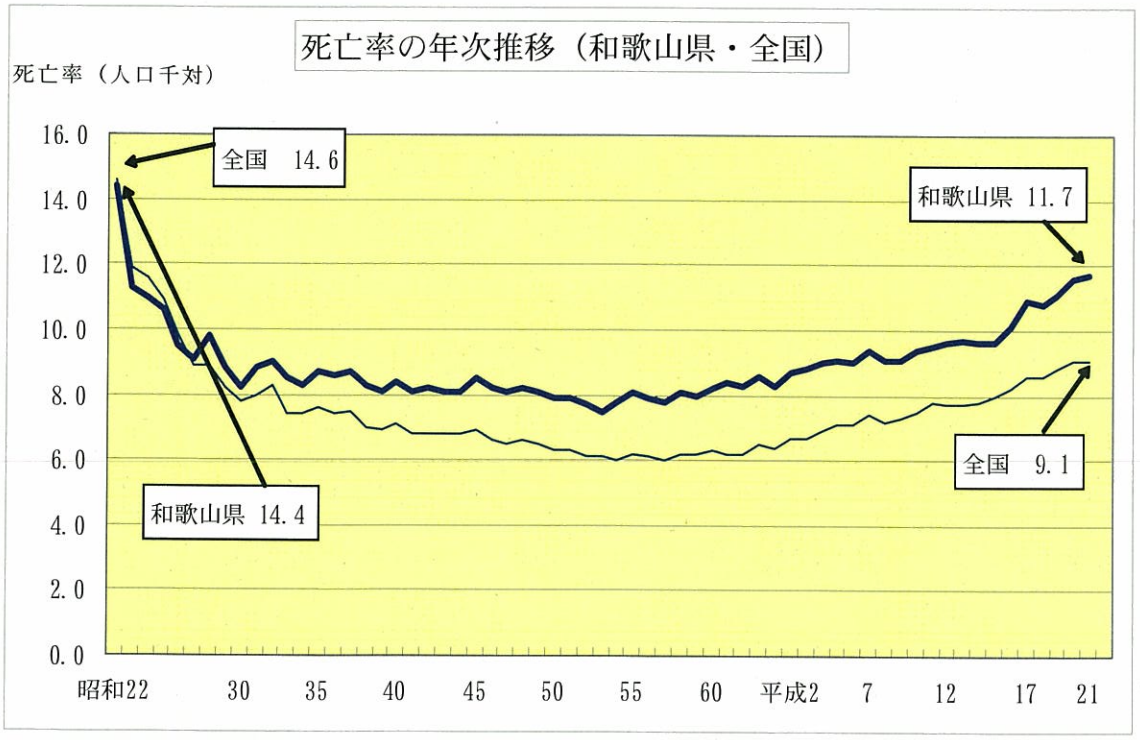
（１）総死亡

平成21年の死亡数は11,736人で、前年の11,679人より57人増加した。

死亡率（人口千対）は11.7で前年の11.6を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成７年及び平成10年以降は１万人以上となり上昇傾向にある。





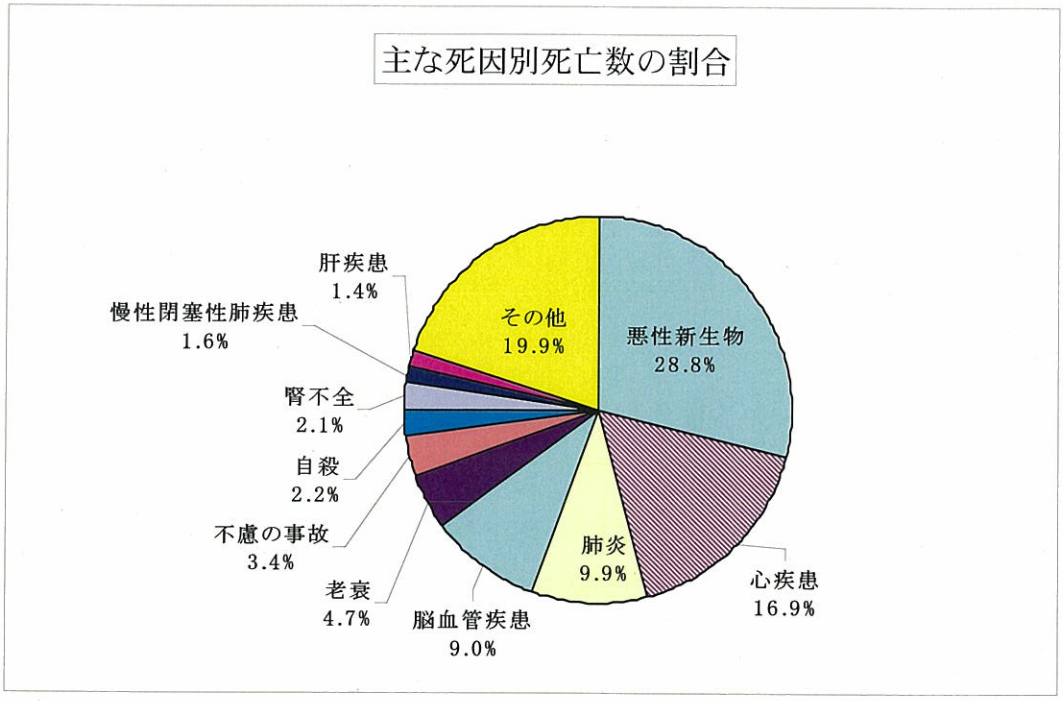
（２）死因別死亡

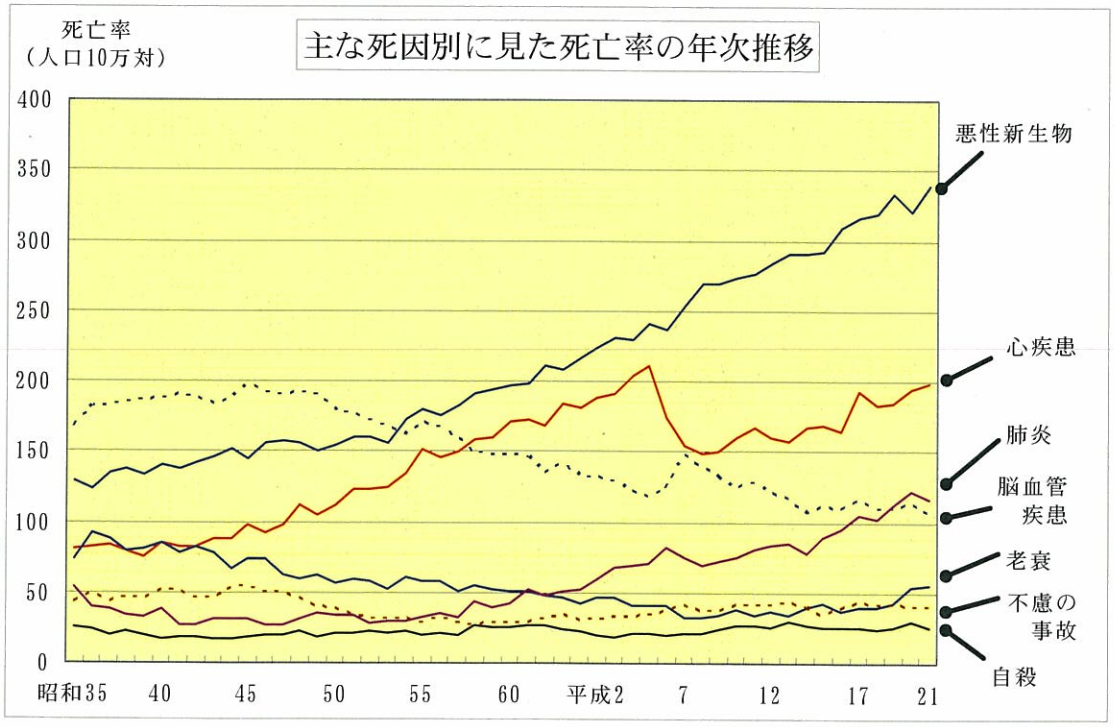
死因別に見ると、死因順位の第１位は悪性新生物、第２位は心疾患、第３位は肺炎であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ28.8％、16.9％、9.9％となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は、昭和54年以降から第１位となり、上昇傾向にある。

心疾患は昭和58年に脳血管疾患に変わって第２位となり、増減はあるものの死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

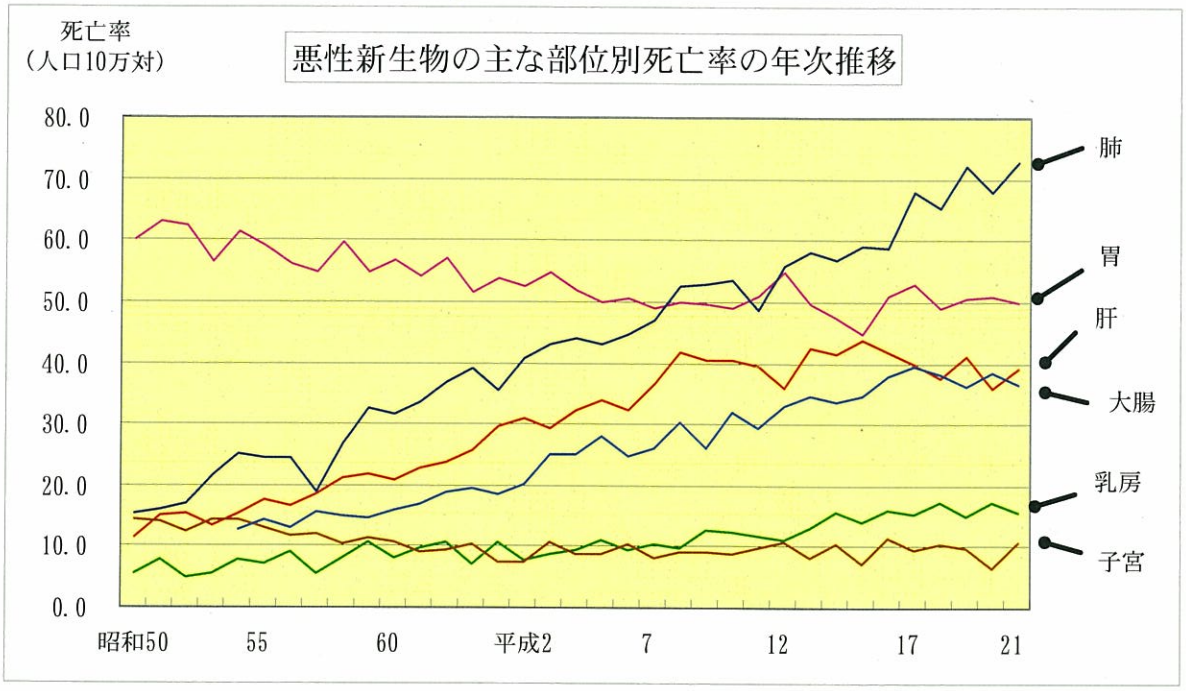
肺炎は平成18年まで第４位であったが、平成19年からは脳血管疾患にかわって第３位となっている。





（３）部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡数は3,385人であり、前年の3,234人よりも151人増加した。
死亡率を部位別に見ると、１位「肺」２位「胃」３位「肝」となっている。
「肺」は平成８年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き１位となっている。



注）①「大腸」は昭和54年からの分類である
②「乳房」「子宮」は女性10万人対の死亡率である

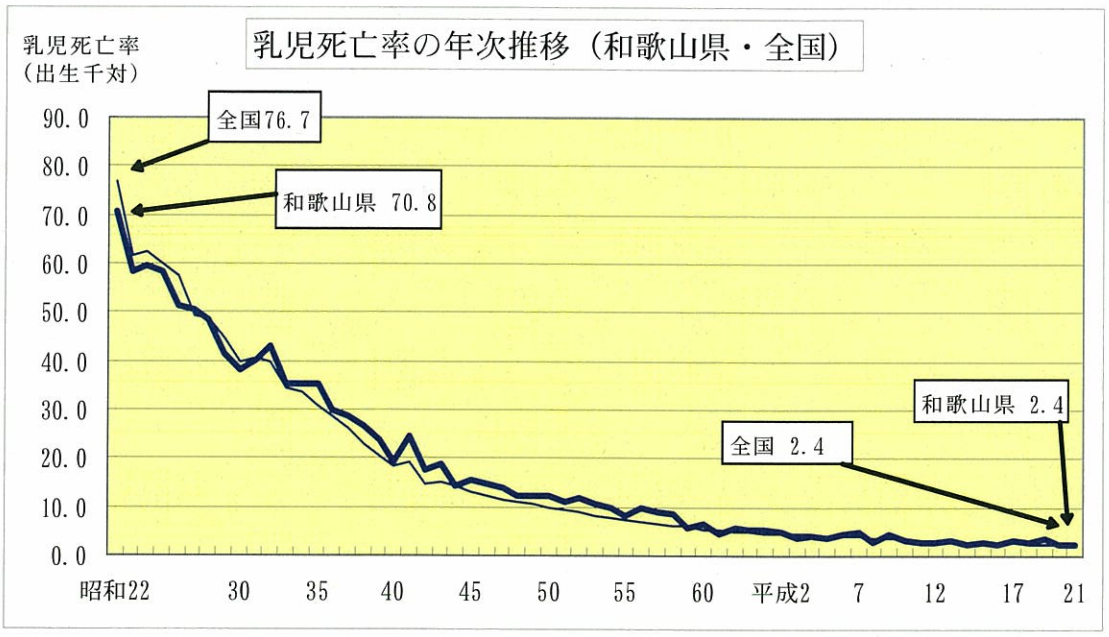
（４）乳児死亡、新生児死亡

平成21年の乳児死亡数は18人で、前年と同じであった。

乳児死亡率（出生千対）は2.4で、前年の2.3を上回った。

また、平成21年の新生児死亡は11人で、前年の 7人より 4人増加した。

新生児死亡率（出生千対）は1.5で、前年の0.9を上回った。



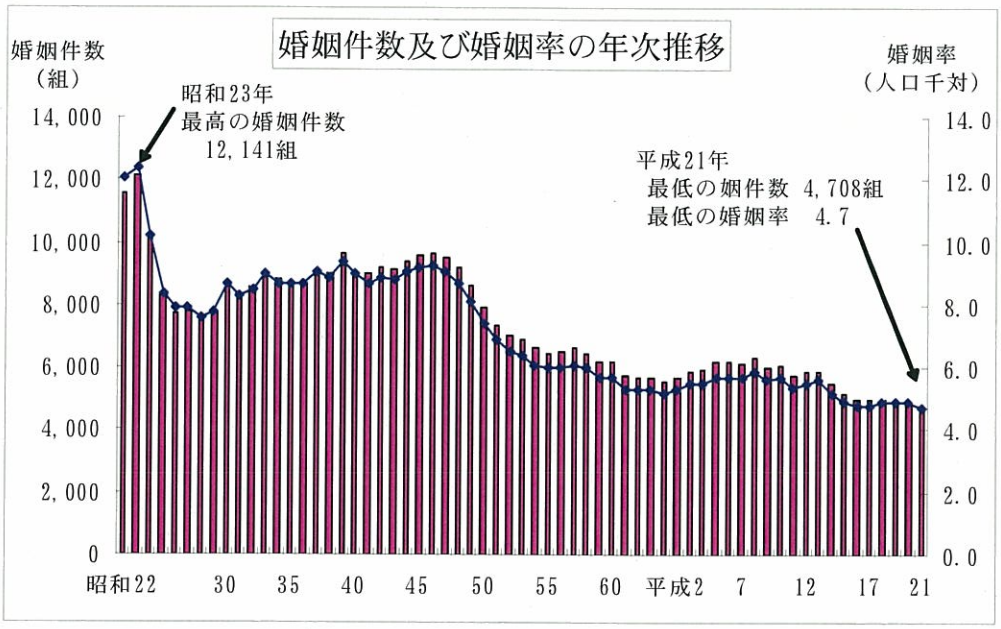
3　婚姻

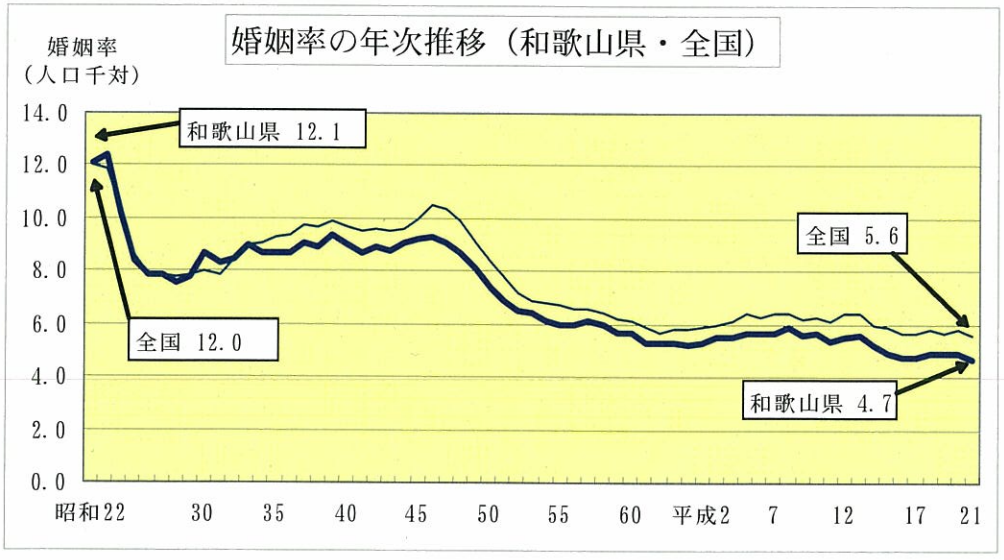
平成21年の婚姻件数は4,708組で、前年の4,902組より194組減少した。

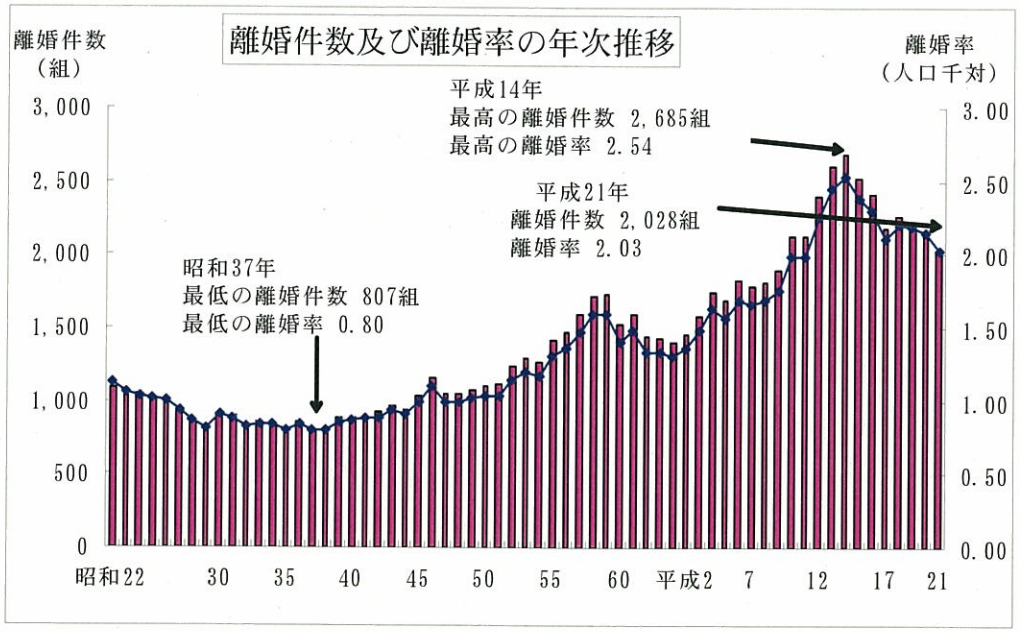
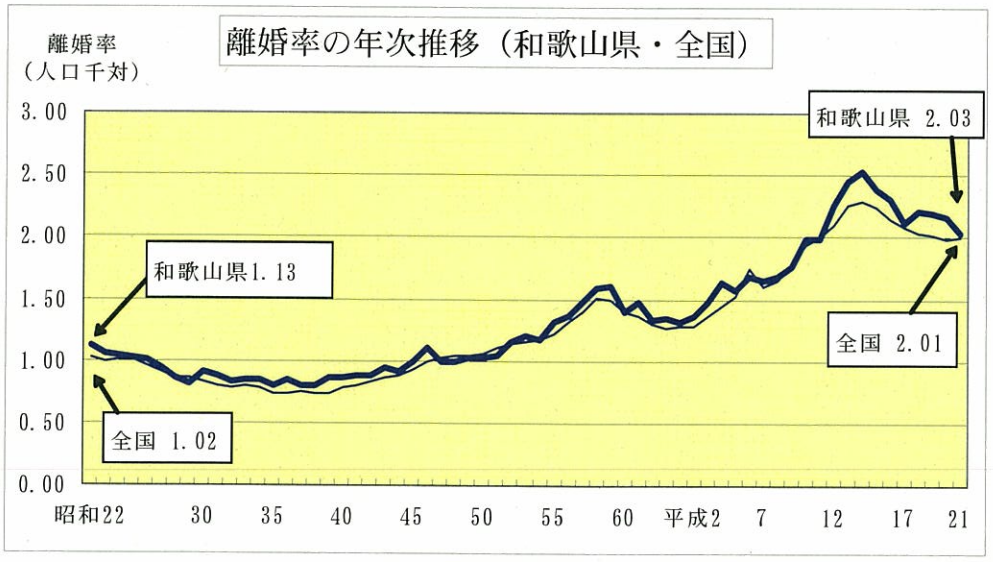
婚姻率（人口千対）は4.7で、前年の4.9を下回った。

婚姻件数は、昭和23年以降、急激に減少し、昭和30年から40年代前半は9,000組前後で推移していたが、昭和46年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成21年は婚姻件数、婚姻率とも最低となった。

平成21年の平均初婚年齢は、夫29.7歳、妻28.1歳で、前年と比べると夫は0.2歳、妻は0.4歳それぞれ上昇した。





4　離婚

平成21年の離婚件数は2,028組で、前年の2,174組より146組減少した。
離婚率（人口千対）は2.03で前年の2.16を下回った。
離婚件数は昭和37年以降増加を続けていたが、平成14年をピークに減少傾向に転じている。